

ブムケ氏講演 — 解説

本稿は、2023年9月8日に、ドイツ・ブツェリウス・ロースクール教授、クリスチャン・ブムケ氏を迎えて追手門学院大学総持寺キャンパスで開催された講演会における氏の講演「ドイツ国法学における憲法理論と憲法ドグマティクの関係」(Die Beziehungen zwischen Verfassungstheorie und Verfassungsdogmatik in der deutschen Staatsrechtslehre)の翻訳である。

2023年4月に新設された追手門学院大学法学部にとって、ブムケ氏は、最初に招待された海外研究者であり、本講演会は、今後法学部が展開していく国際的な学術交流の記念すべき第一歩となった。

ブムケ氏の招聘は、科学研究費助成事業 基盤研究C「基本権実現の他主体性と多層性 — 基本権保障の態様の多角的研究」(代表 柴田堯史)の一環として行われた¹⁾。本稿・本翻訳は、同支援の成果である。本基盤研究では、計画段階から、ブムケ教授の招聘を予定していたが、採択1年後に新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が起こり、その出口が見えた頃にロシアによるウクライナ侵略が起こる、という二重の困難を乗り越えて、ようやく実現した。

本稿では、ドイツ国法学(日本の法学における憲法学に該当する)における憲法理論と憲法ドグマティクの関係が検討される。まず、憲法理論が三つに分類されて説明される。次に、憲法ドグマティクが分析され、特徴づけられる。そして、憲法理論の分類に即して憲法理論と憲法ドグマティクの関係が考察される。さらに、最後に、憲法理論が憲法ドグマティクに不可欠なものと結論付けられている。

「憲法理論」という学問領域については、ドイツの公法学において1970年代以降さまざまな議論がなされてきた。その議論の仕方、代表的な一つの潮流は、ドイツ国法学と連邦憲法裁判所とがドグマティクを通じて結託し、それぞれの領域を越えて交じり合うこ

とによって、共に大きすぎる影響力を行使している、というような形で、連邦憲法裁判所批判に重ねて憲法ドグマティクを批判する立場である。この立場では、憲法ドグマティクを相対化するために、それとは明白に区別され、戦後ドイツ国法学では十分に展開されてこなかったとされる憲法理論の意義を強調することになる²⁾。これに対し、別の潮流は、連邦憲法裁判所の活動、憲法ドグマティクに建設的に関与すべく³⁾、憲法理論を、憲法ドグマティクを展開する上で不可欠な活動として捉える。すなわち、憲法理論が、さまざまな現象、考察を憲法ドグマティクに取り込む際の通行許可証(Passierschein)として機能していると評価し、現に戦後ドイツ国法学において様々な形で営まれてきたものとみなしている。ブムケ氏は、後者の潮流を代表する研究者である。

ブムケ氏は、1963年生まれ。2005年以来、ハンブルクにあるブツェリウス・ロースクールで教授として活動している。その間、氏は、2007年の大阪滞在以来、日本の研究者とも学術交流を積み上げている。氏の主たる研究領域は、基本権論、公法における法形式・行為形式、さまざまな憲法原理、法ドグマティクなどである。また、2023年11月には、憲法理論についての著書として『立憲国家と憲法 — 独立した憲法裁判権をもつ自由で民主的な立憲国家の憲法理論に関する研究』(Verfassungsstaat und Verfassung. Studie zur Verfassungstheorie des liberalen demokratischen Verfassungsstaates mit unabhängiger Verfassungsgerichtsbarkeit)をDuncker & Humblot社から刊行した。本稿はその基本コンセプトに該当する。

高田 篤
柴田 堯史

1) 本基盤研究の成果の一環として、「どのような主体が、それぞれの主体性に依拠してどのように基本権を実現するのか」という本研究の研究課題に対し、一定の解答を与えるブムケ氏の主要な論文を集め、翻訳した著書が、『憲法・行政法研究』として2024年3月に出版される。憲法ドグマティクのうちの基本権ドグマティクの問題については、同書をご参照いただきたい。

2) マティアス・イエシュテット、オリヴァー・レプシウス、クリストフ・メラース、クリストフ・シェーンベルガー著(鈴木秀美、高田篤、棟居快行、松本和彦監訳)『越境する司法 — ドイツ連邦憲法裁判所の光と影』(風行社、2014年)。Matthias Jestaedt, Verfassungstheorie als Disziplin, in: Otto Depenheuer u. Christoph Grabenwarter, Verfassungstheorie, Mohr Siebeck, 2010, S.3 ff.

3) Christian Bumke/Andreas Voßkuhle, Casebook Verfassungsrecht, 8. Aufl., Mohr Siebeck, 2020.